「私のチャペルの思い出」～パイプオルガンの響き～

内山　功（1966年商学科卒）

現在のパイプオルガン以前の「鳥が羽ばたくデザインのパイプオルガン（ドイツ・バルカー社製）」は、私が卒業する直前の今から50年前の1966年2月に奉献されました。しかし残念なことにパイプオルガンとしては43年という短いオルガン人生を終えて、現在のパイプオルガンにバトンタッチしたのです。オルガンは、武藤富男学院長、G.J.ヴァンワイク、齋藤茂夫、園部不二夫教授のご努力で実現されたものです。当時、私は聖歌隊として奉献式にも参加しましたが、更に50年前の私達の卒業式において初めてチャペルにパイプオルガンが鳴り響いたことを今も鮮明に記憶しています。そして、この鳥が羽ばたくデザインは、G.J.ヴァンワイク教授の発案でなされたものであり、教授は、私達学生に、「明治学院生として大きく羽ばたくことを期待している」とのメッセージを贈ってくださいました。私には社会人としてのスタートの時であったので、意味ある言葉であったと同時に、忘れることの出来ないパイプオルガンなのです。なお、このオルガンはチャペルの向かいの記念館2階にミニチュアとして保存されています。